

コード	302021101
記入日	H22.6.10

事務事業途中評価表

課コード	110
課名	福祉長寿課
課長名	峯脇 泉
担当者	深浦 沙織

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	遺族会補助事業費
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3		
施策コード	302	施策名称	協力し支えあう地域福祉の推進	項コード	1		
基本事業コード	30202	基本事業名称	地域福祉推進体制の整備	目コード	1		
事務事業コード	3020211	事務事業名称	遺族会補助事業費	細目コード	207		
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町補助金等交付規則			

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	遺族団体	(対象指標1)	1団体			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	補助金支出団体数 1団体	*****	*****	*****	補助団体数1団体÷対象団体数1団体	*****
		①	団体数	1団体	100%	平成21年度
		(達成率分析)	予定どおり補助を行った。			
*****		*****	*****	*****	*****	*****
		②				
		(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
遺族団体に補助を行うことで、慰霊碑の適正な管理や遺族の相互扶助を促進することを目的とする。		*****	*****	*****	会員数717名÷前年度会員数760名	*****
		①	会員数	717名	94.3%	平成21年度
		(達成率分析)	会員が高齢化し、脱退及び死亡する方も増えており、会員数を増加させることは難しい。			
*****		*****	*****	*****	*****	*****
		②				
		(達成率分析)				

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 団体数	3	3	2	1	1					
	②										
成果指標	① 人	3,508	3,368	2,651	760	717					
	②										
総事業費C (A+B)	千円	3,079	3,079	2,362	717	717					
直接事業費 A	千円	3,079	3,079	2,362	717	717					
人件費 B	千円										
内訳	従事職員数	人									
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	3,079	3,079	2,362	717	717					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 会員同士の交流及び親睦を図る上で、必要な事業であると考える。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 戦後60年を過ぎ、会員が高齢化し、死亡する方も増えている中で、適切な時期に見直しを行う必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 町に一つの団体であり、その内容・目的は適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 会員が高齢化し、親睦及び交流を図る事業のみであり、戦争の恐ろしさを内外に伝えていく活動ができていない。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 語り部活動などを行うなどPR活動を行っていく余地はあるものの、会員の高齢化に伴い難しい部分もある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 慰霊祭の開催等に影響があり、それよりも戦争の恐ろしさを後世に伝えていく活動に大きな影響が出てくるものと考える。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由 被爆者手帳友の会があるものの戦争の恐ろしさを後世に伝えていくうえで、統合することは難しい。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由 会員数は毎年減少しているものの、会員からも会費(正会員:5,000円・準会員:500円)を取って運営しており、これ以上の削減は活動の縮小を招くため難しい。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由 予算計上としては直接人件費として出てこない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 会員も会費を負担し、活動を行っている。会員の実年齢を考えると会費の増額は難しく、適正であると考えている。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	会員の交流及び親睦を図る上で、活動への補助を行うことは、現時点で妥当であると考えるが、会員が高齢化し死亡して減少していく中で、適切な時期に見直しを行う必要がある。
		有効性	会員が高齢化し、語り部活動などの戦争の恐ろしさを後世に伝えていく活動が縮小してきており、団体のあり方を見直す時期にきている。
		効率性	会員数は、毎年減少しているものの、会員も会費を負担して運営しており、現状を維持したい。
	課題に向けた改善策	特になし	
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
有効性		団体の活動と補助の交付要件との整合性については、毎年度審査しているが、会員の高齢化による活動の縮小などが憂慮される。今後も団体との協議を進めていくこと。	
効率性		補助の交付基準に従い適正に執行すること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
		●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
	●			事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
			事業費を見直して事業を継続				事業の廃止	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。